

令和6年度に向けた改善方策

教育目標	◎友だちをたいせつにしよう ○じぶんから進んで学ぼう ○力を合わせてやりぬこう ○健康なからだをつくろう	目指す 学校像	児童にとって、学んでよかったと思える学校 教職員にとって、働いてよかったと思える学校 保護者・地域にとって、支えてよかったと思える学校
------	---	------------	---

重点目標1	重点目標	豊かな人間性「思いやりのある子を育てる」
	考察	児童アンケート「わたしは、友達を大切にしている」に対する肯定的回答は93.7%、と高い数値である。また「友達は、私の話をよく聞いてくれる」に対する肯定的回答は87.5%と非常に高く素晴らしい結果となっている。一方「わたしは、相手に話が伝わるように、話し方を工夫している」に対する肯定的回答は75.9%と若干低めである。共感力を高めるための「人の話を聞く」ことはできているが「人にうまく伝える」ことが児童にとっては難しいということが考察できる。「叱るより褒める」について、職員アンケート「本校の教職員は、子供のよいところを具体的にほめている」に対する肯定的回答は100%であった。良い結果ではあるが、「叱るより褒める」を言及した児童アンケートがなかったことが非常に残念である。
	改善方策	○児童が開いて意識をもって自分の思いや考えを話せるよう指導の工夫をする。 ○職員アンケートと児童アンケートが対応するよう、児童アンケートに独自項目を追加する。
重点目標2	重点目標	豊かな知力「探究的な学びを通し、確かな学力を育む」
	考察	児童アンケート「先生は課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の結果では肯定的回答は全学年で93.2%と高い数値である。児童アンケート「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の肯定的回答は94.2%と高く、職員アンケート「本校は、子供が考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の結果でも肯定的回答は100%であった。この結果より、教師の計画的・意図的で工夫された授業展開に児童は興味や関心を高め、児童が主役になって授業を受けている実態が把握できる。
	改善方策	○校内研究で社会科・生活科における探究的な学びを3年間研究した成果であると考えられる。来年度は算数での探究的な学びを校内で推進していく。 ○授業終末の「ふりかえり」から次時の「めあて」を立てるような授業展開を工夫することで、スパイラルに児童の思考が深まっていくような授業構成を行う。
重点目標3	重点目標	健やかな身体「体力の向上と健康の保持増進」
	考察	「わたし(子ども)は、朝ごはんをしっかり食べている」は、児童・保護者ともに肯定的回答が高かった。児童アンケート「わたしは、中休みや昼休みに、体を動かして遊んでいる」は肯定的回答が68.2%(昨年度62.4%)と昨年度よりも5.8ポイント増加し、コロナ禍前の70%程度まで回復してきている。児童アンケート「わたしは、早寝・早起きをしている」の肯定的回答は、一昨年度65.4%、昨年度50%、今年度54.3%で推移している。
	改善方策	○児童が給食づくりに関わるような活動を取り入れることで食育を進めるとともに、給食試食会などの機会を通して保護者にも食の大切さを啓発していく。 ○児童が「早寝早起き朝ごはん」の揃った健康的な生活が送れるように・家庭との連携を進めていく。